

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

教員は魅力ある仕事です

北薩教育事務所 所長 尾堂 秀一郎

年が明けた1月1日、最大震度7の地震とそれに伴う津波が能登半島を襲った。1月12日現在、この能登半島地震で亡くなられた方は213人、未だ連絡の取れない安否不明の方々は37人という。雨や雪等で救助活動は難航しているとも聞く。さらには20,000人を超える方々が避難所に身を寄せておられるという。こうした状況を知るたび、普段の何気ない平穏な日々を過ごせていることが、いかに幸せなことであるか、改めて実感すると同時に、被災地の方々が、一日も早く被害から復旧し、安定した生活を取り戻せるよう祈らずにはいられない。北薩地区で学ぶ子供たちは、今回の災害をどのように捉えただろうか。被災地の方々に心を寄せながらも、天高く登る龍のように、飛躍の年となってほしいと心から祈っている。

さて、12月3日(土)、薩摩川内市のSSプラザにおいて、「お仕事博覧会 Work わく マルシェ in ぎつませんだい」が開催された。「薩摩川内市にある企業や仕事を知ろう!!」という趣旨のもと、我々、北薩教育事務所も参加させていただき、教員採用のPRや教員の魅力・やりがい等についての展示・PRをさせていただいた。初めての試みであったが、指導課の職員は、来場した子供たちと一緒に「バランスとんぼ」を作成しながら、学校生活の様子や将来の夢など様々なことを語り合った。また、どうすれば先生になれるのかを聞きに来た中学生には、展示資料を見せながら丁寧に説明した。総務課の職員は、汗びっしょりになりながらぐりぶーとまなぶーを連れてきた。管理課の職員は、大人の来場者や引率の保護者らに、「北薩地区で先生をしませんか」というリーフレットを配りつつ粘り強く説明した。管理課長は、バルーンアートの特技を生かして多くの子供たちを呼び込んだ。所員に留まらず、薩摩川内市の各学校の先生方には、事前に教員のよさや魅力等についてたくさん声を寄せていただいた。さらには、薩摩川内市教育委員会の指導主事の方々もイベント当日駆けつけてくださり、協力していただいた。御協力いただいたすべての方々に感謝申し上げたい。

当日の来場者の様子を見ながら感じたことの一つは、「学校がとっても楽しい」と話してくれた子供が多いということである。このことは、各学校の先生方が日々、子供たちと丁寧に向き合って教育活動を展開されている証であろう。もう一つ、来場者の中に、今年度の教員採用試験に合格し、今春採用予定の大学生がいた。「先生になりたいという人が減少しているとも言われている中で、どうして先生になろうと思ったの?」という問い掛けに、「周りからは、『先生って大変なんですよ。』と言われるけれど、実際の先生方に出て話を聞くと、誰もそうは言わない。むしろ、先生の楽しさややりがいを語っていただいた。だから、先生を目指したんです。」と語ってくれた。

働き方改革・業務改善は極めて重要な課題であり、先生方が、より充実した教育活動を展開するためにも全力で取り組まなければいけないのはもちろんであるが、同時に、教員には様々な魅力があり、教員として働くことの素晴らしさややりがいの多い仕事であることも忘れてはいけないと改めて感じた。そして、多くの先生方がその魅力ややりがいを実感しながら日々頑張っておられることを、多くの機会に発信していきたいと感じることであった。

イベントから帰宅後、中学生の二男に聞いてみた。「将来は、先生になってみないか。」「うーん・・・。」なかなか思い通りにはいかないものである。

北薩地区学カアップ推進会議・オープンサポート教科フォーラム

北薩教育事務所では、毎年、学カアップ推進会議を4回にわたり開催し、学カ向上や授業改善に向けた取組を行っています。

今年度は、「算数、数学」「理科」「外国語・外国語活動、英語」の3教科等に絞り、地区内の小・中・義務教育学校から教頭先生6人、各教科の先生24人の計30人に推進委員をお願いし、諸調査結果の分析を基に授業改善の視点を設定し、「主体的・対話的で深い学び(学習者主体の授業)の実現を目指した授業づくり」に取り組みました。

11月24日(金)に「風テラスあくね」で開催した、北薩地区オープンサポート教科フォーラムでは、各部会の研究の視点に基づいた成果を発表し、参加された先生方と活発な協議が行われました。

特に、「主体的・対話的で深い学び(学習者主体の授業)」を目指した指導の工夫について、参加された先生方から「これから意識したい授業の視点や指導方法を学ぶことができてよかった。」「子供主体の授業づくりをしていきたい。」などの感想を多くいただきました。

また、県教育庁義務教育課 内田指導監からは、御覧いただいた感想も交え、本県の学カの状態や課題を基に、学習指導の充実や授業改善に向けた施策や取組について貴重な講話をいただきました。

このフォーラムで得られた成果を、各学校の研修体制や授業改善につなげていただくことを期待しています。



北薩地区子ども会大会・創作活動大会及び指導者・育成者等研修会

12月2日(土)長島町文化ホールにおいて、北薩地区子ども会大会・創作活動大会及び指導者・育成者研修会が開催されました。当日は、161人の子ども会会員や指導者・育成者が参加し、優良団体等の表彰式、各子ども会の活動発表や、創作活動フェスティバル、鹿児島大学共通教育センター准教授の福満博隆氏による講話がありました。活動発表では、阿久根市「浦区子ども会」と、長島町「小浜子ども会」の皆さんが、日頃の子ども会活動の取組について、スライドを基に発表しました。また、創作活動フェスティバルでは、子ども会会員がクリスマスリースづくりやニュースポーツ「ポッチャ」の体験に楽しく取り組む姿が見られました。



今回の大会では、長島町内の中学生が運営スタッフとして活躍し、大会のアナウンスを行いました。

研究公開の紹介 その1 (令和5年12月までの開催分)

薩摩川内市立入来中学校

令和5年10月10日(火)開催
令和4・5年度地区指定研究協力校「学力向上」

互いを認め合い、
自ら未来を拓く生徒の育成
～自己肯定感と学習意欲を高める授業の工夫・改善～

課題解決に向けて、何を、どのように学んでいけばよいかについて見通しをもたせるとともに、振り返りの際、教師が生徒の学びを認め、価値付ける働き掛けを行うことで、確かな学力の定着とともに、生徒の自己肯定感を育むことを目指しました。研究の成果を公開授業(3年数学:基礎・発展コースの習熟度別学習)にて公開いただきました。



阿久根市立阿久根小学校

令和5年11月14日(火)開催
令和4・5年度地区指定研究協力校「学力向上」

自分の考えを表現し、
伝え合う阿小の子の育成
～子供が主役となる学びを目指して～

「北薩の授業づくり3ポイント」を基に、自校化した手立て「①意欲を引き出す課題提示の在り方」、「②スクラムタイム(対話活動)の充実」、「③ダイヤモンドサイクルを用いた振り返り」による授業改善、加えて「④特別支援学級に在籍する子供の交流及び共同学習の在り方」についての取り組んだ成果を公開授業(2年国語科、5年社会科)で見せていただきました。



長島町立城川内小学校

令和5年12月7日(木)開催
令和4・5年度地区指定研究協力校「国語科」

読み取る力を身に付け、自分の
考えを表現できる子供の育成
～説明的な文章における授業実践を通して～

研究主題を踏まえ、読み取る力と表現する力を育むために、主張の伝え方を工夫したり振り返りの観点を設けたりして、課題解決に向けた実践を行いました。研究の成果は、5年生と6年生で公開しました。どの学年においても、子供たちが自分の考えを、根拠を基にして表現する姿が印象的でした。



長島町立蔵之元小学校

令和5年10月25日(水)開催
令和4・5年度「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進事業

運動する喜びを実感しながら、生き生きと運動に取り組む子供の育成
～少人数のよさを生かし、互いに学び合う体づくり運動の学習を通して～

主題に迫るために、「教科体育の充実」、「教科外体育の推進」、「家庭・地域との連携」を3つの柱として研究に取り組みました。



公開授業では、ICTを活用し自分たちの動きを確認したり、小グループで教え合ったりしながら、楽しく運動に取り組む姿が見られました。

薩摩川内市立亀山幼稚園

令和5年12月15日(金)開催
令和4・5年度鹿児島県教育委員会指定研究協力園
令和5年度鹿児島県公立幼稚園・こども園協会研究大会

子供が主人公。夢中になって遊ぶ子供の育成
～わくわくする環境づくりと援助～

「①記録の工夫と見直し」、「②具体的な援助の在り方と情報の共有化」、「③わくわくするような環境の見直し」に取り組みました。

4園交流保育の参観後、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして子供の姿を共有し、子供が夢中になって遊ぶための環境づくりや教師の援助、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について協議しました。



道路標識の確認は、運転者の義務です！

本地区では速度超過で検挙される教職員が後を絶ちません。県全体で21件。うち10件が北薩地区の教職員です。道路標識やスピードメーターを確認せず、前方の車に追従して走行し、検挙される事例が多発しています。「制限速度を知らなかった」は理由になりません。道路には制限速度以外にも様々な道路標識があります。必ず道路標識に従い、心にゆとりをもち運転しましょう。